

【教育目標】心身ともにたくましく、豊かな心を持ち、進んで学ぶ上っ子 【目指す児童の姿】根気強くやり抜く子ども・人を大切に作る子ども・進んで学ぶ子ども

項目	重点努力事項	具体的実践事項	評価指標（成果目標値）	取組状況・成果○と課題●	評価	児童	保護者	教職員	学校関係者からの意見等	次年度の取組・改善策（案）
心身の健康（体づくり）	基本的生活習慣の育成	スマイルウィークチェック活用と家庭啓発	児童は「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身につけている（児童90%・保護者90%）	○スマイルウィークチェックを定期的に位置づけ、結果を学校と保護者で共有、定期的に発行する「保健だより」等と併せて家庭啓発を実施できた。 ○取組シートを活用し、児童が目標を立て各家庭で意識して取り組んでいる様子がうかがえる一方で、取組への個人や家庭の意識差も感じられる。	B	88	86	88	・早寝等の習慣が若干低下しているように思われる。ゲーム、ユーチューブ、携帯が生活習慣に少なからず影響している。部活動もなくなり、全体的に運動不足。	【基本的生活習慣の育成】 ①スマイルウィークチェックを継続し、基本的生活習慣の定着と啓発を図る。 ②情報モラル教育を計画的に実施する。 ③メディアの使い方やゲーム依存症等の危険について、保護者への啓発を図る機会を設ける。（入学式・総会・就学時健診・教育講演会）
	体力の向上	新体力テストの結果をふまえた補強運動の継続と運動量の確保（取組の確実な実施）	児童は運動に親しみ進んで運動している（児童90%・保護者90%）	●メディアの使用が全体的な課題であり、ゲームが生活習慣に影響している児童も見られる。（ゲーム、ユーチューブ） ●教科体育の時間に補強運動を位置付け、全学級で再調査を実施したが、記録の向上が見られたのは一部であった。 ○コロナ禍で活動も制限されるが、外遊びを励行し、担任も一緒に活動することで運動に親しむ態度の育成に努めている。	B	88	92	96	・基本的生活習慣の育成として家族できまりを決め意識して取り組むことはよいことだが、メディアに関して減らすことは実際難しい。逆に体力向上に向けた取組をすることでポイントを設ける等、やり方を変えると少し変化しないか。 ・基本的生活習慣は家庭の問題だが家庭への啓発はありがたい。体力の向上についても家庭で取り組んでもらうことが大切だと思う。	【体力の向上】 ①登校班による登校、委員会や縦割り班等による外遊びを奨励し、体力の維持・向上を図る。 ②体力テスト結果から、課題克服に向けた補強運動を確実に実施し、成果を検証する。
豊かな心（心づくり）	魅力ある学級づくりの推進	存在感や自己実現の喜びを実感できる支持的風土の学級づくり（係活動を取り入れた仲間づくり）	児童は楽しく学校生活を過ごしている（児童95%・保護者90%）	○係活動を工夫し主体的な活動を展開することで、存在感や自己実現の喜びを感じる児童が増えており、支持的風土のある学級づくりにつながった。	A	95	95	100	・挨拶の温度差が気になる。教職員の求める姿に導いていただければ幸いである。	【魅力ある学級・学校づくりの推進】 ①不登校児童や、学校が楽しくないと感じている児童もいる。（12月調査7%）全ての児童にとって居心地のよい、支持的風土のある学級づくりを進める。（好事例の共有と実践） ②SSTやSGEをの要素を取り入れた活動を定期的に行い、円滑な人間関係づくりを図る。 ③社会性や規範意識の醸成と実践化を図るため、振り返り・評価の充実を図るとともに、道徳や学校行事等の特別活動と関連を図った取組を強化する。 ④挨拶については「挨拶上手4つのコツ」をベースに、まずは教師が率先垂範すること。また、「上小プライド」への取組や児童主体の「あいさつ運動」等の在り方を見直し、指導を継続する。
		「上小プライド」の実践による社会性や規範意識の高揚（生活目標の振り返り、挨拶・返事、言葉遣い・思いやり・美しい学校）	児童はチャイムや生活の約束を守っている（児童90%・保護者90%）	○「上小プライド（生活目標）」への振り返りを数値化・見える化する中で、職員の意識と児童の意欲が高まり、社会性や規範意識の高揚につながっている。 ①挨拶・返事（4月96%、9月92%） ②言葉遣い（5月81%、10月89%） ③思いやり（6月87%、11月95%） ④美しい学校（7月90%、12月92%） ●「挨拶」については個人差が大きい。教職員の評価も低く、教職員の求める姿と児童の意識に差がある。3学期は「相手より先に挨拶をしよう」を目標に、取組の重点化を図っていく。	A	95	92	91	・「上小プライド」の結果①～④を見る化し、生活の中で褒め合うことで、もっと伸びるのではないかと思う。 ・子どもが学習したことを家庭の大人の啓発につないだらよい。	
		児童は人を思いやる言動をしている（児童90%・保護者90%）	○「愛の123運動」を基本に日常的な実態把握に努め、気になる児童への組織的な対応ができた。 ○定期的に「児童理解の時間」を設定し、全職員で情報の共有を図るとともに、必要に応じて迅速に対策委員会を開催できた。 ○全校集会や掲示物を通じて「相談体制」への周知を継続することができた。	A	96	92	89	・挨拶は大人（保護者、先生、地域）が先に行動を起こさないと子どもたちには伝わらない。行動は大人から！先生方が努力しているのは伺える。		
		児童は学校や家庭で挨拶をしている（児童95%・保護者90%）	○「愛の123運動」を基本に日常的な実態把握に努め、気になる児童への組織的な対応ができた。 ○定期的に「児童理解の時間」を設定し、全職員で情報の共有を図るとともに、必要に応じて迅速に対策委員会を開催できた。 ○全校集会や掲示物を通じて「相談体制」への周知を継続することができた。 ●12月実施の「心のアンケート（いじめ）」結果では、「いじめられたことがある」との回答が21人おり、低学年を中心に、冷やかしかからかい、たたき等の言動が見られた。 ●定期的なアンケートが実施できていない月もあり、確実に実施する必要がある。	A	91	80	52	・定期的なアンケート調査等で言い出し辛い状況を回避してあげたい。 ・日頃から細かいことにも耳を傾け関わることで未然に防いでいる。小さなちょっぴり、受け取り方で違うため、心の教育として分かりやすく小さいころから伝えていきたい。 ・いじめられていると思っていても、知らないうちに相手を傷つけていることもある。相手を認め自分を見つめる心を持ってほしい。 ・いじめについては、重大事案にならないよう、見て見ぬふりがなく、しっかりと対応してほしい。		
いじめ・不登校・問題行動の未然防止	日常的な実態把握と迅速な組織的対応（「愛の123運動+1、対策委員会の実施）	学校や学級にいじめがなく、児童は安心して過ごしている（児童90%・保護者90%）	○特別活動において、児童の自主性を引き出すような職員の積極的な働きかけや取組の工夫が増え、高学年児童の主体的な活動につながっている。 ・児童会による「なかよし月間」の取組（6月、12月） ・運動会での児童会種目への取組 ・6年生を中心にした縦割り班活動への取組 ・児童主体、児童立ち上げによるクラブ活動の実施	B	85	92	100	・いじめられていると思っていても、知らないうちに相手を傷つけていることもある。相手を認め自分を見つめる心を持ってほしい。 ・いじめについては、重大事案にならないよう、見て見ぬふりがなく、しっかりと対応してほしい。	【いじめ・不登校・問題行動の未然防止】 ①「いじめアンケート」を定期的に行い、早期発見と組織的対応に努める。 ②「児童理解」の時間の充実を図る。 ③「誰かに相談する」ことができるよう、相談窓口の周知と呼びかけを継続し、相談しやすい環境づくりを推進する。（相談窓口の表示設置） ④「上小いじめ基本方針」の刷新を図り、教職員・児童・保護者でいじめへの認識を共有する。	
	定期的なアンケートと教育相談の確実な実施（相談窓口の設置と周知）	学校は児童の相談や悩みに誠実に対応している（児童90%・保護者90%）	○特別活動において、児童の自主性を引き出すような職員の積極的な働きかけや取組の工夫が増え、高学年児童の主体的な活動につながっている。 ・児童会による「なかよし月間」の取組（6月、12月） ・運動会での児童会種目への取組 ・6年生を中心にした縦割り班活動への取組 ・児童主体、児童立ち上げによるクラブ活動の実施	B	96	85	98	・縦割りによる活動など、よく機能しているように思われる。 ・自主性を高めるため縦割り班の活動を取り入れ工夫されていることに感心した。継続していただきたい。 ・色んな場面で活躍する場があることで気づかない自分の力を知ることができると思う。 ・しっかりと活動が見えている。	【特別活動の充実】 ①教科等や特別活動との関連を図り、児童の自主性を引き出す機会を意図的に設ける。（「なかよし月間」の取組等）	
特別活動の充実	児童の自主性を引き出す委員会活動、学校行事（活躍の場の設定と工夫）	学校は児童の自主性を育む委員会活動や学校行事に努めている（児童90%）	○特別活動において、児童の自主性を引き出すような職員の積極的な働きかけや取組の工夫が増え、高学年児童の主体的な活動につながっている。 ・児童会による「なかよし月間」の取組（6月、12月） ・運動会での児童会種目への取組 ・6年生を中心にした縦割り班活動への取組 ・児童主体、児童立ち上げによるクラブ活動の実施	A	98		95	・縦割りによる活動など、よく機能しているように思われる。 ・自主性を高めるため縦割り班の活動を取り入れ工夫されていることに感心した。継続していただきたい。 ・色んな場面で活躍する場があることで気づかない自分の力を知ることができると思う。 ・しっかりと活動が見えている。	②縦割り班活動を通じて、高学年児童のリーダー性を育むとともに、異学年の児童を「縦につなぐ」活動として、活動の幅を広げる。（遊び・集会・掃除・全校道徳・防災学習・運動会種目等） ③学校行事や地域行事への児童の参画を図る。（運動会や学習成果発表・学校運営協議会・地域行事）	

項目	重点努力事項	具体的実践事項	評価指標（成果目標値）	取組状況・成果○と課題●	評価	児童	保護者	教職員	学校関係者からの意見等	次年度の取組・改善策改善策（案）
確かな学力（学びづくり）	熊本の学びを踏まえた授業づくり	①「学び合い」「対話」のある授業づくり ②学力向上につながる共通実践（デザインシート・授業カード） ③基礎・基本の確実な習得 ④効果的なICT機器の活用	学校は学力を伸ばす授業の工夫・改善をしている。 （児童90%・保護者90%） ・授業が分かる（県学調90%） ・最後まで教えてくれる（県学調90%）  学校はタブレットの効果的な活用に努めている （児童90%・教職員90%）	○児童同士の「学び合い」や「対話」を充実させていくため、「話し方・聞き方」ガイドを作成し、全児童に配付した。学びのツールとして積極的に活用する児童の姿も見られている。 ●「学び合い」に係る意識調査では、9割を超える児童が「一生懸命に聞いた」と回答しており、聞く態度が育ちつつある。しかし、「自分の意見や考えを話したか」が8割程にとどまっており、今後の課題である。 ●「学び合い」や「対話」の位置づけについては、授業者による差が見られる。  ○共通実践事項としての「授業のデザインシート」の見直しを図るとともに、学習過程を示す「板書カード」を活用し、課題の提示からまとめ・振り返りまで、概ね学習の流れが揃ってきた。 ○「板書カード」の活用により、9割の児童が「授業の流れが分かる。」と回答しており、授業に見通しをもって参加できている。  ○短時間であるが、基礎・基本を習得する時間を1単位時間や単元の中に位置付け、意識した取組が継続できた。更に取組の充実を図る。 ○11月を「学力充実月間」とし、基礎基本の補充と定着を図る取組を全職員で実施できた。2月も実施予定。  ○全ての学級において、日常的に電子黒板やタブレット等ICT機器の活用ができており、9割を超える児童が「機器を活用した授業は分かりやすい」と感じている。 ●ICT機器の効果的な活用に不安を感じる職員もあり、今後も研修を継続する必要がある。	A	98 92	91 92	96 82	・「授業の流れが分かる」という9割の結果がすごい。もっと、意見等が言えるようになればさらに授業が楽しくなるように思える。  ・楽しい雰囲気への授業の工夫、転換は「学び合い」を高めるためにとても良いことだと思う。自分の意見や思いを伝えるとなると、なかなか発言できない時もあるので、小さな発表の場を増やし、一人一人が自信がつくように伸ばしてほしい。また、学習の理解度を確認し県平均より高い学力を維持したい。  ・先生方の熱心な授業が感じられ、児童も落ち着いて楽しく生活できているように感じた。  <b>評価（A）</b>	【熊本の学びを踏まえた授業づくり】 ①「授業のデザインシート」の共通実践。  ②「分からない」が言える支持的風土のある学級づくりを強化する。  ③教育活動全体を通して「対話」のトレーニングが必要である。朝の活動を工夫するなど、学校全体で時間を確保する。  ④ICT機器の効果的活用に係るショート研修を継続する。（スキル向上と好事例の共有）  ⑤「確かな学力の育成」は喫緊の課題である。調査結果等を分析、学校総体としての取組を実施する。 ・習熟の時間の確実な実施（定着確認の徹底） ・年間を通した学力充実の時間の設定 ・少人数指導等の効果的運用 ・低学年の放課後等学習の時間の設定 ・その他  【アクションプロジェクトの推進】 ①家庭学習の習慣化については、「家庭学習の手引き」を基に家庭と連携した取り組みを進めるとともに、児童の「主体的な学び」を引き出す内容や指導の充実を図る。
	アクションプロジェクトの推進	家庭学習の手引き、タブレットの活用、合理的配慮	児童は家庭学習の習慣が身につけている（児童90%・保護者90%）	○「家庭学習の手引き」を配付し、各学年に応じた自主学習を推進するとともに、タブレットを活用した家庭学習を実施できた。 ・好事例の紹介やコンクールの実施による意欲の喚起。 ・タブレットの学習ソフト活用による家庭学習の実施。 ●家庭学習には個人差が見られる。引き続き学習習慣の育成に向けた啓発と家庭との連携を図りたい。	A	92	88	98	・ICT機器の活用は、今後ますます伸ばしていただきたい。  ・タブレット使用による学びは児童の学力向上に役立っていると思う。一人一人がうまく利用し自分のために使っているのかを確認しながら、持ち帰りの学習を実施してほしい。  ・保護者に呼びかけ、家庭学習が親子で取り組めるよう指導されていると思う。  ・今後、子どもたちのスマホ取得は必要となるから、使い方を教育してほしい。  <b>評価（A）</b>	②学年や発達段階をふまえ、家庭学習へのタブレット端末の活用を図る。
地域とともにある学校づくり	五者連携の強化	気になる児童、配慮を要する児童の家庭との連携の強化	学校は保護者と連携し、きめ細やかに対応している（保護者90%）	○「愛の123運動」を基本に、担任を窓口とした家庭との連携を図ることができている。 ○特別支援学級においては日々の連絡帳を積極的に活用するとともに、全家庭との面談を実施し、連携を深めた。 ●気になる児童や児童同士のトラブル等について、担任や生徒指導担当を中心に対応しているが、保護者からの評価はやや低い。今後も誠実な対応に努めたい。	B		85	91	・コロナ禍における精一杯の範囲内の活動ではあるが、様々な活動の制限が保護者と教職員、保護者同士の距離をつくっている。実際、担任以外の顔を知らない保護者や、知り合いをつけない保護者もいる。	【五者連携の強化】 ①授業参観については、参加が減少傾向にある。休休日のPTA学年行事には多くの参加があり、平日開催の行事参加が難しくなっている。年度当初に学校行事等の計画を早めに周知するとともに、必要に応じて曜日の見直し等を検討する。  ②児童のトラブル等については、迅速な対応と家庭連絡を徹底する。  ③気になる児童や家庭への対応等については、児童民生委員等地域の協力を得るとともに、必要に応じて町生活福祉課や児童相談所、専門機関等と連携した取組を進める。  ④ホームページや安心メールを通じた情報の発信を継続する。（ホームページの定期的な更新）
		①「ウエルカムデー」等による授業公開 ②HP等を活用した情報の発信	学校は児童や学校の様子を保護者や地域に伝えている（保護者90%）	○コロナ禍であるが、年間計画に基づき授業参観やウエルカムデーによる授業及び学校公開を実施できた。低学年を中心に保護者の参観も多い。 ●学級通信や保健だより、HP等による情報の発信に努めているが、コロナ禍で来校していただく機会やPTA活動が減少し、学校の取組や学校での児童の様子が分からない、不十分と感じている保護者がいる。	B		85	95	・保護者の来校が多いのは、子どもや学校に興味がありいいことだと思う。少ない会議でも学校側の思いは伝わり情報の共有もできている。幼保小が入学する前に細かくできたらつながりが深くできると思う。	
		花に包まれた潤いのある教育環境の整備	学校は清掃が行き届き、美しい教育環境を整備している（保護者90%）		A		98	93	・登下校時や家庭生活の問題については、運営委員や地区の民生児童委員、区長、保護者の会長、地区育成部長等との話し合いの場をつくり協力を求めている。  ・保護者が授業をもっと参観するよう、PTAと協議してほしい。保護者の参観が多いとは思えない！  <b>評価（B）</b>	

肯定的回答(%)

評価 A 達成している B 概ね達成している C あまり達成していない